シリーズ●戦争の証言 8

安居俦子

ひとすじに星は流れて

満州引揚げ—母の手記

8歳と5歳と2歳と1歳の四児をかかえた若い母親が、
地獄にもひとしい混乱うずまく「満州」各地をさまよ
ながら、わずかな勇気をたよりに生きぬいて、夢にま
みた祖国にたどりつくまでの、緊張と感動にみちた手記

¥1300 大平出版社

シリーズ●戦争の証言⑧

安居倩子

ひとすじに星は流れて

満州引揚げ—母の手記

太平出版社

著者紹介

安居　儔子 やすい

1914（大正3）年，兵庫県竜野市に詩人 内海信之の長女として生まれる。兵庫県立竜野高等女学校を卒業。1941（昭和16）年，長春（新京）へ渡る。現在，愛知県名古屋市に在住。主婦。

ひとすじに星は流れて——満州引揚げの母の手記

1972年7月15日　第1刷発行
1979年6月15日　第7刷発行

¥1300

著　者　安居　儔子
発行者　東京都千代田区神田神保町1-46　崔　容徳
印刷者　東京都文京区後楽2～22　江戸川印刷所

発行所　東京都千代田区神田神保町1-46-2　美成社ビル
株式会社　太平出版社 ©
電話 03-295-3531(代表)　振替東京1-99563

落丁・乱丁本はおとりかえいたします

シリーズ●戦争の証言 8

安居 俤子

ひとすじに星は流れて

満州引揚げ—母の手記

8歳と5歳と2歳と1歳の四児をかかえた若い母親が、地獄にもひとしい混乱うずまく「満州」各地をさまよ
ながら、わずかな勇気をたよりに生きぬいて、夢にま
みた祖国にたどりつくまでの、緊張と感動にみちた手記

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.co

シリーズ●戦争の証言（全20巻）完結

①死の影に生きて　中学生動労動員日記　1300
②戦災孤児の記録　1100
③ヒロシマ―絶後の記録　広島原爆の手記　1300
④学童集団疎開　1300
⑤無名兵士の詩集　1300
⑥東京空襲下の150日　1300
⑦戦火に生きた父母たち　中学生の開き書　1100
⑧ひとすじに星は流れて　満州引揚げ母の手記　1300
⑨わかれ　妻と娘の戦争体験　1300
⑩満州―修羅の群れ　満蒙開拓団難民の記録　1300
⑪中国人強制連行の記録　花岡暴動事件を中心に　1300
⑫南京・広島・アウシュヴィッツ　1300
⑬神と愛と戦争　キリスト者の戦中日記　1300
⑭ぼくら墨ぬり少国民　戦争と子どもと教師　1300
⑮戦争の横顔　陸軍報道班員の記録　1300
⑯沖縄戦敗兵日記　1300
⑰海軍特別警察隊　下級戦犯の手記　1300
⑱16歳の兵器工場　野沢高女動労動員の記録　1300
⑲ヒロシマの夜の病棟から　被爆者日記抄　1300
⑳一九四五年―慟哭の満州　日本人孤児からの手紙　1300

日本反戦詩集　1300
日本原爆詩集　1300
英訳原爆詩集・1
The Songs of Hiroshima　1500

感動のロングセラー
ユンボギの日記　1300

著者紹介

安居　傳子 やすい

1914（大正3）年，兵庫県竜野市に詩人 内海信之の長女として生まれる。兵庫県立竜野高等女学校を卒業。1941（昭和16）年，長春（新京）へ渡る。現在，愛知県名古屋市に在住。主婦。

ひとすじに星は流れて——満州引揚げの母の手記

1972年7月15日　第1刷発行
1979年6月15日　第7刷発行

¥1300

著　者　安居　傳子
発行者　東京都千代田区神田神保町1-46　崔　容徳
印刷者　東京都文京区後楽2－22　江戸川印刷所

発行所　東京都千代田区神田神保町1-46-2　美成社ビル
株式会社　太平出版社 ©
電話 03-295-3531(代表)　振替東京1-99563

落丁・乱丁本はおとりかえいたします

シリーズ●戦争の証言⑱

安居倩子

ひとすじに星は流れて

満州引揚げ——母の手記

太平出版社

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.co

シリーズ・戦争の証言8

ひとすじに星は流れて

満州引揚げの母の手記

シリーズ・戦争の証言8

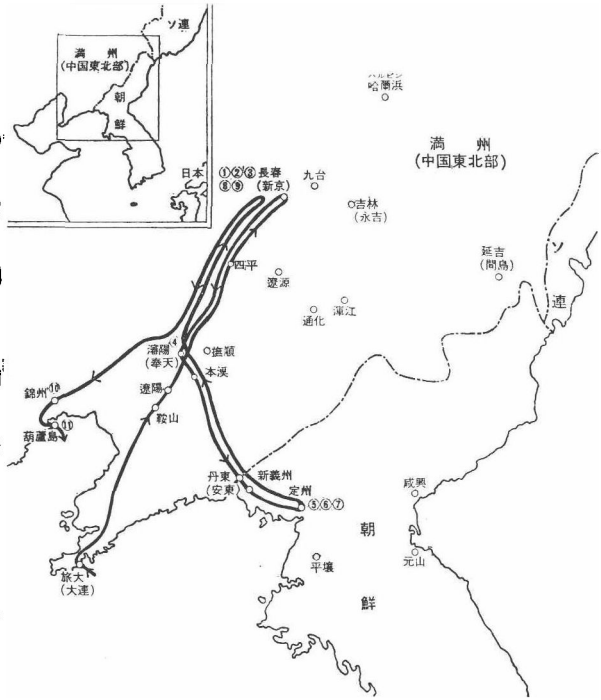
ひとすじに星は流れて——満州引揚げの母の手記

シリーズ・戦争の証言 をおくるにあたって

地　図……14
はじめに……15
1　赤い夕日——'41～'45年7月……17
　新京の印象17　夫の出征21　緊迫する新京25
2　ソ連軍の侵入——'45年8月……29
　ボーイ宋のこと29　避難の準備33　新京からの脱出38
3　敗　戦——'45年8月……45
　北朝鮮へ45　八月一五日50　過労と栄養失調のなかで53
4　ふたたび新京へ——'45年9月……60
　懐かしい社宅に60　共同生活65　ソ連兵の恐怖69
5　生きるために——'45年秋……74
　パンの行商74　行商の思い出79
6　厳冬迫る——'45年10月……85
　子どもたち……85　百貨店の出店89　会社名で借金93

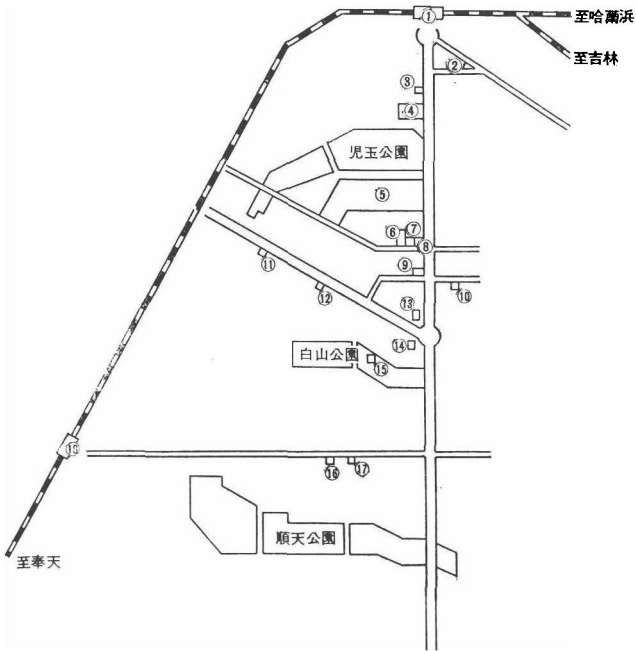
7 父母の声が聞こえる——'45年初冬……98
元のわが家へ 98　ソ連兵 101
8 寒空と善意と——'45年11～12月……109
家を追われて 109　思いがけない吉報 114　しばしの安らぎのなかで 119
9 荒廃のなかに——'45年冬……125
黒河の人 125　こんな日本人も 136
10 生と死と——'46年1～3月……145
小さな生命 145　ピストル事件 151　発疹チフス 157　そして多くの死が 162
11 八路軍入城——'46年3月……167
市街戦始まる 167　白山住宅へ移る 177
12 新しい生活——'46年4～6月……182
公園の茶店 182　うちわ販売 189　畑のトマトが熟したら…… 195
13 引揚げ迫る——'46年6～7月……198
死線をさまよう長女 198　重なる悲しみ 203　引揚げ一か月前 206
14 ついに祖国へ——'46年8～9月……212
さようなら、新京 212　日本が見える 216
あとがき……219

①夫，召集される(1945.5.17)
②ソ連，参戦(1945.8.8)
③新京を捨て，あてもなく逃亡の旅に出る(1945.8.10)
④疎開の途中，奉天でソ連軍の空襲にあう(1945.8.11)
⑤定州の朝陽国民学校に滞在(1945.8.13～9.2)
⑥敗戦の報を聞く(1945.8.15)
このころ筆者と長男，三女，病にたおれる
⑦ふたたび新京に出発(1945.9.2)
⑧中央軍と八路軍の市街戦はじまる(1946.3)
⑨引揚げのため，新京を立ち去る(1946.8.31)
⑩錦州に1週間留まって船を待つ(1946.8.31～9.7)
⑪日本へ向けて出港(1946.9.7)



新京市街図

①新京駅
②金泰百貨店
③堀山病院
④新京神社
⑤関東軍司令部
⑥東本願寺
⑦日本毛織社宅
⑧ニッケビル
⑨三中井百貨店
⑩松田宅
⑪興安病院
⑫東北病院
⑬中央銀行
⑭国際病院
⑮白山住宅
⑯明治生命社宅
⑰順天警察署
⑱南新京駅



此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.co